

平成 15 年 4 月 28 日

国際石油開発(株)(インペックス)
東京都渋谷区恵比寿 4 丁目 1 番 18 号
代表取締役社長 松尾 邦彦

アゼルバイジャン領南カスピ海海域 ACG プロジェクトに係わる権益譲渡について

国際石油開発株式会社(インペックス)は、本日 4 月 28 日、Azeri(アゼリ)油田、Chirag(チラグ)油田、Gunashli(グナシリ)油田を含むいわゆる ACG プロジェクトの 10%の権益保有者であるロシア共和国ルークオイル社から当該権益を譲り受ける手続きを完了した。

本権益譲渡については、既に昨年 12 月 20 日に、モスクワにて同社との間で権益譲渡契約に調印しており、当該譲渡の発効にはアゼルバイジャン国営石油会社 SOCAR および同プロジェクトの各パートナーの承認を必要としていたが、今般、それら必要な手続きが全て完了したものである。

ACG プロジェクトは、アゼルバイジャン領南カスピ海海域において、7 カ国 10 社から構成される国際コンソーシアムである AIOC **【Azerbaijan International Operating Company】** が開発・生産を推進しており、1997 年に Chirag(チラグ)油田より生産を開始し、現在日量 14 万バレルで生産中であり、今後段階的に増産し、2006 年には日量 50 万バレル、2008 年には日量 100 万バレルの水準に達する見込みである。

(下記内容については、昨年 12 月 20 日契約調印時の内容を適宜情報等アップデートしたものである)

※) 補足説明

1.アゼルバイジャン領南カスピ海に位置する既発見油田である Azeri 油田、Chirag 油田及び Gunashli 油田深海部(水深 150m－400m)を含む ACG プロジェクトを対象とする PS 契約が 1994 年 9 月に国際コンソーシアム(7 国 10 社)とアゼルバイジャン国営石油会社(SOCAR)の間で締結され、同年 12 月に発効している。

2.本プロジェクトは、アゼルバイジャン領南カスピ海海域、水深 100m－400 m に位置し面積は 432.4Km²である。本プロジェクトでは既に旧ソビエト連邦時代に Khezerdenizneft により Gunashli 油田(1979 年)、Chirag 油田(1985 年)および Azeri 油田(1987 年)が発見されている。

1997年11月より Chirag 油田において早期生産が開始されており、2003年3月末現在、生産井12坑によりこれまでに約1億9,350万バレルを生産している。AIOCのプレス発表によれば、本プロジェクトの可採埋蔵量は54億バレル程度と見込まれており、世界でも有数の超巨大油田となることが期待されている。なお、生産原油の性状は、軽質(API34°)、低硫黄の良質である。

3.生産された原油は、AIOCにより建設されたパイプラインにより輸送・出荷されており、生産開始時には、ロシアを経由してノボロシスクに至るルート(北ルート)を使用し、現在はバクーから黒海のスピサに至るルート(西ルート)を使用している。2005年の完成をめざし昨年9月に建設に着手したBTC(Baku-Tbilisi-Ceyhan)パイプラインが完成した後は主として同パイプラインで地中海のジェイハンまで輸送し、同地から出荷する計画である。

4.本ACG油田の開発・生産を推進する国際コンソーシアムは、当社の参加により、BP社(権益比率34.1%、オペレーター)、UNOCAL社(10.3%)、SOCAR社(10%)、当社(10%)、Statoil社(8.6%)、Exxon-Mobil社(8%)、TPAO社[トルコ国営石油会社](6.8%)、Pennzoil社(5.6%)、伊藤忠石油開発(3.9%)、Delta-Hess社(2.7%)、の6ヵ国10社で構成されることとなる。

5.当社のカスピ海地域への取組みについては、同地域をターゲットエリアと定め、これまで、積極的に事業を展開してきた。具体的には、

i.1998年にはカザフスタン共和国北カスピ海沖合鉦区の権益を取得し、2000年に同鉦区で超巨大なカシャガン油田の発見に成功し、2002年6月には同油田(推定可採埋蔵量70億~90億バレル)の商業発見宣言をおこない、現在開発計画を政府承認手続き中である、

ii.2002年9月より主としてACGプロジェクトの原油搬送ルートとして8ヵ国10社より構成される国際コンソーシアムが推進するバクーからグルジア共和国トビリシを経由し地中海に面するトルコ共和国ジェイハンに至る総延長1,760kmにおよぶBTCパイプラインプロジェクトに、北カスピ海沖合鉦区カシャガン油田から生産される原油の搬出路を確保する目的の一環として参画している、

このように同地域ではこれまで着実な成果を上げてきており、このたび既発見・生産中のACGプロジェクトの権益を取得することにより、カスピ海域が当社にとって、インドネシア、オーストラリアに続く第3のコアエリアと位置付けられることとなることが期待される。今回の権益譲渡を契機として、当社は、今後、ロシア第一の石油会社であるルークオイル社とロシア内外での協力関係を拡大することを期待している。

6.なお、当社は、子会社インペックス南西カスピ海石油(株)を通じて本事業を推進することとしており、同社は石油公団からの出資および債務保証、ならびに政府系金融機関を始めとする邦銀の協調融資を受けている。(現在の資本金は、53,594 百万円、出資比率は、インペックス 51%、石油公団 49%)